

令和3年11月19日  
(2021年)

保護者の皆さまへ

吹田市立千里新田小学校  
校長 宮本 和彦

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

【報告の中の矢印は全国平均との関係を表している】

全国の正答率を上回る	↑
全国の正答率をやや上回る	↗
全国の正答率とほぼ同じ	→
全国の正答率をやや下回る	↘
全国の正答率を下回る	↓

### 1. 教科に関する調査結果の分析

#### ●国語《各領域における成果と課題、指導のポイント》

話すこと・聞くこと ↑

ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

書くこと ↘

全国の平均正答率をやや下回る結果であった。

目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。また、記述式になると無回答率が高くなる傾向が見られた。

読むこと ↑

ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。しかし、記述式の設問においては全国に比べて無回答率が高くなる傾向が見られた。

## 言語事項 →

全国の平均正答率とほぼ同じ結果であった。

しかし、「主語」「述語」「修飾語」などの文法を問われる設問に課題が見られた。

《児童質問紙（国語に関する項目）より》

「目的に応じて自分の考えを話したり、質問したりする」肯定的な回答は約7割で全国平均をやや上回っていた。

「国語の勉強は好き」約5割5分、「社会で役立つ」は9割、「言語の特徴や使い方の知識を理解し使う」は8割5分、「目的に応じて考えと理由が分かるように工夫して書く」は約7割5分、「目的に応じて読み、感想を持ち自分の考えを広げる」は7割5分で、それぞれ全国平均とほぼ同じであった。

「国語の勉強は大切」「内容はよくわかる」の肯定的な回答は、それぞれ約9割、約8割で、全国平均をやや下回っていた。

## ☆指導改善のポイント

- ・国語だけでは書く機会が少ないので、国語以外の教科でも自分の考えを書く機会を増やす。
- ・主語と述語との関係についての理解を深める。
- ・修飾語がどこにかかるのかという修飾と被修飾との関係に気を付けて文の構成について考える場面をつくる。
- ・日常で触れる文章においても、図表やグラフ・写真や挿絵などが文章のどの部分と結びつのか考えながら読むことを習慣化する。
- ・文章の中心となる語や文を見つけ、文章全体を短くまとめる活動を行う。

## ●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

### A 数と計算 知識 ↑ 思考 ↗

知識・技能：全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

思考・判断・表現：全ての設問において、全国の平均正答率をやや上回る結果であったが、小数を用いた倍について、基準量を1としたときに比較量はいくつ当たるかという意味について理解し、説明する問題では課題が見られた。

### B 図形 知識 ↑ 思考 ↑

知識・技能：ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

思考・判断・表現：全ての設問において、全国の平均正答率を上回る結果であったが、必要な情報を選び出すことや、面積の公式を正しく使うことに課題が見られた。

### C 測定・変化と関係 知識 ↗ 思考 ↗

知識・技能：ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率をやや上回る結果であったが、速さを求める除法の式と商の意味について理解することに課題が見られた。

思考・判断・表現：全ての設問において、全国の平均正答率をやや上回る結果であった。

### D データの活用 知識 ↑ 思考 ↑

知識・技能：ほぼ全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

思考・判断・表現：全ての設問において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であったが、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題が見られた。

《児童質問紙（算数に関する項目）より》

「算数の勉強は好き」肯定的な回答は約7割、「内容はよく分かる」は約8割5分、「公式やきまりのわけを理解しようとする」約9割でやや上回っていた。

「社会に出たとき役立つ」は肯定的な回答は約9割で全国平均を下回っていた。

「算数の勉強は大切」は肯定的な回答が約9割、「ふだんの生活の中で活用している」約7割5分「分からない問題もあきらめずにいろいろな方法を考える」は約8割、「解き方・考え方が分かるようにノートに書く」約9割で全国平均とほぼ同じであった。

### ☆指導改善のポイント

- ・数や式、表・図・グラフといった数学的表現を用いて、筋道を立てて考えて表現することを重視した学習活動に取り組む。
- ・数式の意味を自分の言葉で、順序立てて分かりやすく説明するよう指導の工夫を行う。
- ・相手に自分の考えを説明したり、考えを比べることを通して、自分の思考を深めたり、広げたりできる機会を設ける。
- ・問題文をよく読み、どのような解答の仕方が求められているのかを読み解く時間を持つ。

## 2. 生活習慣や学校環境等に関する調査結果の分析

### 自分自身のこと

「自分には良いところがある」肯定的な回答は約7割5分「自分で決めたことはやり遂げる」約8割で全国平均をやや下回り、「夢や目標を持っている」約7割「失敗を恐れないで挑戦する」約6割5分「困っている人を進んで助ける」は約8割で全国平均を下回っている。「人の役に立つ人間になりたい」は約9割5分で全国平均と同じである。

### 家庭生活・地域生活について

家庭生活については「朝食を毎日食べる」は9割5分「毎日同じ時刻に起きる」は約9割「毎日同じ時刻に寝る」は約8割で全国平均と同じである。

「家庭学習を30分以上している」約9割「1日30分以上読書をする」4割「本が家に100冊以上ある」は約4割5分で全国平均をやや上回っている。

「地域の行事に参加している」は約5割で全国平均を下回っている。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」も約4割5分で全国平均の約5割を下回っている。

### 学校生活・学習について

「学校に行くのは楽しい」は約8割5分で全国平均とほぼ同じ、「いじめは、どんな理由があってもいけない」は約9割5分で全国平均をやや下回っている。

授業について、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」は約7割で全国平均を上回っている。

「話し合う活動で友達の考えを受け止めて自分の考えを伝えている」約8割5分「話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたりできている」約8割、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」約8割5分で全国平均をやや上回っている。

「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まできくことができる」約9割、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」約7割5分、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」約7割で、いずれも全国平均をやや下回っている。

「学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」約6割、「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」約7割と、いずれも全国平均を下回っている。

また、「話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていた」約8割5分、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた」約7割で、いずれも全国平均とほぼ同じである。

ICTについて、「授業でICT機器を1回以上使用した」は約4割5分で全国平均を上回る。「学校で他の友達と意見を交換したり、調べたりするためにどの程度使用しているか」について約5割が週1回以上は使用していると回答し、全国平均をかなり上回っている。また、「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」は約9割で全国平均とほぼ同じである。

### ☆今後の指導について

- ・生活や学習の場面で友達同士が関わり、協力し合う取り組みを通してそれぞれの良さを発揮し、自己有用感を感じることが出来る機会をできるだけ多く持つようにしていく。また結果ではなく、試行錯誤しながら繰り返し挑戦する姿を積極的に評価していくようにしていく。
- ・子供たちが進んで読書しようとする態度を養うために学校や家庭で読んだ本の楽しさや面白さを話す機会を持ち、授業でも図書館を利用し資料を活用しながら調べる活動に取り組む。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」との認識が一層高まるよう、いじめ予防授業を通して相手の立場に立って考えることやシンキングエラーやアンバランスパワー等のいじめが深刻化するキーワードについて理解を深めていく。
- ・話し合う活動に積極的に取り組むことによって自分の考えを深めたり広げたりすることはできている。今後は自分とは異なる意見に対して考え、議論する機会を持ち、違った意見を認め合える環境づくりをしていく。また、主体的に取り組む力や自学自習の力も育成していく

子供たちが、授業の中で輝き、夢を持って生きていくために

校長 宮本 和彦

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果集計及びその分析が終わりました。結果分析の詳細は、この私の文面に至るまでにお読みいただいたかと思しますので、ここでは大きく二つの視点で綴りたいと思います。

一つめ。子供たちの学習について。本調査の教科の点数結果については国語も算数も「よくできました」と言えると思います。ただ、ちょっと気になるのは、児童質問紙中の「国語の勉強は好き」に対する肯定的回答は約5割5分、「算数の勉強は好き」は約7割という数字です。きっと教科の取り組みの中で、さらに“満足感”や“達成感”が味わえれば、「好き」の数字はもっと伸びるのではないかと思います。子供たちが“満足感”や“達成感”を味わうためにどうすればいいのか……勿論、自身の興味・関心から自学自習によって高めていくことも良い方法ではありますが、私は授業での取り組みが大変重要になってくると考えます。授業の中で、分かった、できた、気付いた、発見した……という思いに至った時、子供たちはきっと“満足感”や“達成感”を味わうと思います。そのために我々教職員は、今後もより良い授業づくりの研究を進めてまいります。また、しっかり発表できた、みんながちゃんと聴いてくれた……という思いに至った時にも同様だと思われま。そのためには学級のみならず発表者の意見などをちゃんと聴けることが大切で、そんな学級づくりを子供たちと教職員で進めてまいります。併せて、素敵なノートづくりも“満足感”や“達成感”につながる、大切なことだと思います。子供たちのオリジナリティにも期待します。

二つめ。子供たちの自己肯定感や夢について。児童質問紙中の「自分には良いところがある」の肯定的回答は約7割5分、「夢や目標を持っている」は約7割という数字です。休み時間など、日頃の子供たちの様子を見てみると天真爛漫という言葉が当てはまるのですが、一方で、自分に自信がなかったり自分の将来への夢を持てていなかったりする子が多いたなど、改めて考えてしまいます。周りの大人が、子供たちのできていることをできていると、ちゃんと言葉で伝えることが大切で、自分に自信を持った子はそこから夢を育むかもしれません。また、大人が子供たちに夢を語ることも大切なことだと思います。

様々なことが難しい世の中かもしれませんが、子供たちをしっかりと見守り、しっかりと支え、しっかりと鍛える中で、逞しい子供たちに育てていってほしいなど、改めて願う次第です。



